

# 第17回秋期教育研修会開催にあたって

3月11日に発生した震災で被災された皆さまに対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

震災の影響で第54回日本手外科学会学術集会はWeb会議となりましたが、春の講習会は6月4日に大阪国際会議場で開催することができ、7月に入ってからWebで受講することも可能になりました。

さて、来年には多くの手外科専門医の先生方の第1回目の更新が行われます。更新に関して1つの問題は、必要単位数が20単位から50単位に増えることです。実際には教育講演を25単位受講する必要があり、その手段として春の講習会(Web研修会)、そしてこの秋の講習会を利用して頂ければ、短期間で15単位を得ることができます。本来秋の講習会は手外科にとってのベーシックな講習会であり、若い先生方を対象としていますが、専門医の先生方が専門医を更新される際に、一度自分の知識のチェックとして秋の講習会を利用されるのも有意義な手段ではないでしょうか。

今回は初めて北海道で講習会(春、秋含めて)を開催致します。開催に際しましては日本手外科学会前理事長の三浪明男先生にいろいろとお世話になり、北海道大学医学部学友会館「フラテ」で開催する運びとなりました。北海道大学は私自身もあこがれであり、また観光の一つの名所でもあります。このような施設で研修会が開催できること、担当理事としては本当にうれしく思っております。紙面を借りて三浪先生にお礼を申したいと思えます。

プログラムですが、第1日目の13時から「手関節疾患の診断法」を北海道大学の三浪明男先生に講演頂き、次に東北労災病院の信田進吾先生に「神経修復の基本的な手技」、弘前医療福祉大学の佐藤彰博先生に「手の末梢神経損傷の評価とセラピー」と神経に関する講演をして頂きます。16時10分からは北海道大学の岩崎倫政先生に「肘関節の機能解剖」を講演頂き、その後は症例検討会を企画しております。2日目は8時40分から私が「橈骨遠位端骨折の合併症」について講演し、その後は聖マリアンナ医科大学の別府諸兄先生に「スポーツによる手関節障害の診断と治療」、長崎大学の田中克己先生に「創傷の取り扱い方、植皮の基本的な手技」をお願いしております。昼食後は聖マリアンナ医科大学の清水弘之先生に「手の外科における超音波の応用」を、札幌第一病院の青木光広先生に「屈筋腱縫合と癒合の基礎」を講演して頂きます。ほとんどが手外科に関する基本的な内容の講演ですが、私と別府先生の講演は少しアドバンス的な内容を含んでいるかもしれません。今回の講演全てが手外科医にとっては重要な内容で、若い先生方だけでなく、専門医の先生方にも満足して頂けるものと確信しております。そして今回は1日目の症例検討会の後に全員懇親会を会費制ですが準備致しました。会費以上の食事と飲み物を用意する予定ですので、ふるって参加して頂きますようお願い申し上げます。

今回は初めての北海道での開催であり、気候的にも最高の季節であると思っております。勉強だけではなく夜は「すすきの」にくり出し、そして講習会が終わったら観光やスポーツを楽しんで、北海道を満喫して帰って頂きたいと考えております。

平成23年8月

一般社団法人 日本手外科学会 教育研修委員会  
担当理事 矢島 弘嗣